

様式第3号

会 議 録

| | | | |
|--------------------|-----|--|------------|
| 会議名 (付属機関等名) | | 川西市参画と協働のまちづくり推進会議 | |
| 事務局(担当課) | | 地域分権推進課 | |
| 開催日時 | | 平成23年5月27日(金) 午後5時から7時40分 | |
| 開催場所 | | 4階 庁議室 | |
| 出席者 | 委員 | 岩崎会長、高畑副会長、相川委員、磯部委員、荻田委員、荻本委員、奥村委員、佐伯委員、佐島委員、土肥委員 | |
| | その他 | 市民活動センター・男女共同参画センター指定管理者 (特活)市民事務局かわにし | |
| | 事務局 | 総合政策部長、地域分権推進課長、同課課長補佐、同課主任、地域・相談課長 | |
| 傍聴の可否 | | 可 | 傍聴者数 4人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合は、その理由 | | | |
| 会議次第 | | (1) 開会 (2) 基本計画の策定について ~課題の抽出~ (3) 閉会 | |
| 会議結果 | | 別紙議事録のとおり | |

審 議 経 過

| | |
|-------------------|---|
| 【開会】 会長 | <p>それでは、「第4回川西市参画と協働のまちづくり推進会議」を開会させていただきます。</p> <p>今日のご多忙の中、また、台風が接近している中、お集まりいただきありがとうございます。今日のご欠席の方はいらっしゃいません。</p> <p>前回の最後にご挨拶がございましたが、この4月から参画と協働のまちづくりの所管が変わりまして、市民生活部市民環境室参画協働・相談課から総合政策部政策推進室地域分権推進課が担当されることになりました。そこで、簡単にご紹介いただけますでしょうか。お願いします。</p> <p style="text-align: center;">(事務局 自己紹介)</p> |
| 会長 | <p>ありがとうございました。それでは、さっそく議事に入らせていただきますが、その前に前回の議論を簡単に振り返っておきたいと思えます。皆さんの手元に「振り返りメモ 3月25日 第3回」というものがあるかと思えます。</p> <p>あの時は、3・11の直後ということもあって、皆で黙祷を捧げた後に議論させていただきました。あれから色々考えることがあって、ずっと沈んでしまっている感じがします。ただ、何かを福島のためにしなくてはいけないと思っていますし、皆さんも心のどこかでそう思っているでしょう。そして何よりも我々の生き方を変えていかなければいけないのかと思えます。特に放射能の話、不用意なことは言えませんが、自分たちの子供、将来のために何か行動を起こさなければいけないのかという気はしています。</p> <p>振り返ってみると、阪神淡路大震災が起こった95年をピークに日本の15歳から64歳の生産年齢人口が下がってきました。2005年の国勢調査に比べると2010年の国勢調査というのは総人口がほんのちょっと増えたのですよね。17,000人増えたのですが、あの3・11で25,000人亡くなってしまいましたから、総人口が減るということをすごく象徴的に表した地震だったという気がします。95年の阪神淡路、11年の東日本で、時代の大きな曲がり角の2回目の始まりが地震で開けていることを考え続けたこの2ヶ月位の話であります。</p> <p>そういう中で、前回の振り返りをさせていただきますと、今日もご出席いただいておりますが、市民活動センターが川西にあり、そして</p> |

中間支援センターとしての役割を果たしたいのですが、必ずしも、現在、認知度は高くないという現状の話聞いた後で、委員の皆さんと意見交換をしていただきました。その概要は、この振り返りメモの中で、皆さん方の意見を一応40の項目に事務局でまとめていただいています。これを見ていただき、今日も議論していきたいと思っているのは、例えば、13番、14番ですね。特に商工会、11、12、13、14でしょうか。商工会もそうですし、事業者、商工会、市民の皆さん、そしてNPO、ボランティア、コミュニティの皆さん、自治会の皆さんというところを繋ぐ機能を、市民活動センターは目指したいのだが、十分果たされていないのではないか。中間支援の機能をどうやってこれから発揮してもらえばいいのかというところが大きな課題になっています。ただその時に、23番、24番で、NPO法人というのは有償で社会貢献的に動こうとしているのだということ。自治会、コミュニティというのは地域が活動基盤で、NPOはそのエリアを越えた活動というふうに、お互いがエリアも志向性も違うものとして、お互いがその存在を十分分かっているのですが、それだけになかなか繋がりが取れていないというのが現状だということ。ですからその一方で、27番でしょうか、今後のまちづくりの為には、行政、自治体、コミュニティ、市民活動センター、商工会等と一緒に問題解決にあたる必要があるということ。それからボランティアが継続して活動していく仕組みづくりが必要だということですね。このような今日の論点整理にも繋がってくる話が出ておりました。ただ、やはり地域の中の基本的な組織というのは、昔から続いてきた自治会という組織であるし、29、39ですか、有償のボランティアというものを自治会やコミュニティに持ち込んでいくと、地域社会の根本的なものが壊れてしまうのではないかという発言もありました。この点については、これからも色々議論をしていかなければいけないことだというふうに思います。ただ、その一方で、地域課題が複雑化していけば、NPOのような専門家がいないければ、解決も難しくなるということもあるだろうということ。それが、例えば35番であります。NPOさんは一生懸命やっているのに分かってもらえないというようなことがあり、しかしその一方で、NPOが、34番にあります。自治会、コミュニティの代わりをすることはできないというような、色々なご意見を前回頂いたわけです。

こんな前回の議論をうけて、今日、前回もありましたが、現状と課題、特に課題出しというものを今日で最後にして、色々な項目を出し

ていこうと思っています。

議事に入らせていただきますが、以前、委員から資料作成の要望が出ていました。現在、主な地域活動の団体の関係のイメージ、それから地域活動団体等への支援の状況ですね。具体的に言えば、お金の流れということです。行政からどのようにお金が流れているのかについて、この2つの資料を今回、我々がこれから議論していく際の参考として、作っていただきましたので、これについてまずご説明をいただきたいと思います。ではお願いいたします。

事務局

それでは、お手元に配布の資料1と資料2につきまして私のほうからご説明をさせていただきます。

まず資料1でございます。現状における主な地域団体等の関係イメージでございます。これは、先程おっしゃいましたように、現在の川西市における地域団体、どのような地域団体があって、それがどのような関係性になっているのか、また、行政としての川西市役所もしくは市民活動センター、また、コミュニティセンターや公民館、あと社会福祉協議会さん、こういったところの関係性を一つの図で示したものです。ただ、ひとつお断りをさせていただくと、これはあくまでも典型的なものをあげたものでございますので、例えばこれが全てのコミュニティ推進協議会の中の構成団体というわけではないということをご了承いただきたいと思います。

図のほうの説明をさせていただきますと、真ん中に地域というような実線で枠をくくったものがございます。この地域の中には、大きくネットワークとしては二つ、一つはコミュニティ推進（連絡）協議会で、これは概ね13の小学校区にございます。この中の構成を見ますと、運営委員会をはじめとしまして、体育部会、文化、環境、安全、福祉というところに分かれております。これ以外にも少し細かく分かれた部会をお持ちだということもあると聞いてございます。コミュニティ推進協議会の中の団体を見ますと、太枠の点線で書かれたところが推進協議会の範囲といいますか、枠組みになります。例えば自治会をはじめとした、民生委員児童委員協議会や老人クラブ連合会という団体がこの中で活動されているというようなところが一つです。また細い点線で囲った地区福祉委員会、これは14地区ございますが、必ずしも別のネットワークではありません。この重なっているところを見ていくと、自治会、民生委員児童委員協議会ですとか、PTA、子ど

も会連合協議会というふうに、コミュニティの枠組みの中と重なり合う部分もあるというところがございます。それと地域の一番下のほうに、テーマ型活動ということで、NPOや事業者、市民活動団体という典型的なものを入れさせていただいております。こういった色々な団体が川西市の地域活動を担っていただいているというような状況でございます。左のほうに川西市役所、ここから太い矢印が出ているかと思えます。その矢印の中には、例えば、補助金だとか委託料というように表しておりますが、例えば、一番上の補助金・委託料を見ていただきますと、コミュニティ推進（連絡）協議会にはこういった形で全体に補助金などが出ているというところなんです。コミュニティの点線の中でもそれぞれの団体に個別に各部署から補助金や報償金が出ているという矢印でございます。それと、お金の流れだけではございませんで、例えば、コミュニティセンターや公民館のところを見ていただくと支援という形でコミュニティに対する支援、また市民活動センターですと、NPOさん、事業者というところとの連携・協力というところでの支援も当然あるということでございます。これはあくまでもイメージでございますが、中ほどの社会福祉協議会に対しても市から補助なり委託料が出て、再度、会費の配分金というところで、地区福祉委員会にも出ていると聞き及んでいるところでございます。おおまかなイメージの図でございますが、資料1のほうで現状の関係というところの説明でございます。

資料2のほうをご覧くださいませでしょうか。先程、川西市役所の各部署のから、それぞれの地域もしくは団体に色々な形でお金が出ているというところを少し細かく見たものでございます。大変、矢印が見にくくて、申し訳ございません。見ていただきたいのは、そのコミュニティ推進協議会のそれぞれの団体のところに入っている矢印に番号が付いているかと思えます。一番上のコミュニティ推進協議会を見ますと（1）（2）（3）、自治会を見ますと（8）（9）（10）というふうに。このそれぞれの団体のところにあります番号をまず見ていただいて、この番号はどんな補助金もしくは内容かということをお2枚目のほうで表しております。因みに、先程のコミュニティ推進連絡協議会（1）を見ますと、コミュニティの組織活動補助金というところで、これは23年度の予算ベースでございますが、1,200万程の予算というところでございます。それと色々な団体に出ている典型的なものとしたしまして、（10）の再生資源の集団回収の奨励金。これはリサイクル推進課から、例えば自治会やPTA、老人クラブというふうに

さまざまな団体に対して奨励金という形で出ているもの、こういったものもごございます。また、安全や福祉につきましても、それぞれ同じように所管の方から補助金や委託料という形での金額が出ています。ただ一点、ご承知いただきたいのが、例えばこの中にPTAや子ども会とあるのですが、これはそれぞれのコミュニティの中には、当然地区ごとのものがあるのですが、お金が直接に出ているということではございません。例えば、連合会というところに直接お金が出て、それがそれぞれの地区におりているということではありません。あくまでも、これは、間接的な支援も含んだ関係図であるということをご了承いただき、ご覧いただければと考えております。雑駁でございますが、現状の川西における各団体の関係もしくは支援等の流れについて説明させていただきました。以上です。

会長

はい、ありがとうございました。この資料については、ざっとご説明いただきましたが、もう少し具体的にこういう関係、こういうお金の流れを今後の川西の地域社会のためにどういうふうに使っていくのかという時の参考になると思っています。ですから、地域にこういう団体があり、そしてそれが色々な形でまとまっていたり、婦人会のまとまりであるとかコミュニティのまとまりであるとか、そういう形で区分してまとまっていたりするのだということです。それから、地域団体に対しては、お金がかなり複雑な形で流れているのだというイメージを共有していただくことが中心かと思います。この際ですので、この二つの図に対して何かご質問はございますか。

委員

大変幅広く支援していただいております、ありがたく思っております。印象として、非常に総花的な支援の仕方になっているのではないかと思います。ここで1億3000万円の資金を出しておりますね。1億円あれば相当のことができます。ところが、20、30にばらまいてしまい、1千万とか、何百万とすると、お金の力としては弱くなるのですね。その辺をうまくコントロールしていただきたいと思えます。例えば、コミュニティの福祉部会。ここでやっている仕事として、例えば一人暮らしの方のお見舞いとか回っていくわけですね。ところが、自治会は自治会でやっているわけですよ。コミュニティと自治会のダブリがあるのです。ですからそういうのは、そっちでやる必要がないし、そっちでやるならそっちに任せるというふうにしたらと思えます。資金が細切れで来るから、おかしな使い方になってしまうの

ですね。それは、貰った方が自分たちで管理すればいい面もあるのですが、もう少し市の方でも考えていただきたいと思います。例えば、団体数を増やそうとしておられるのか、金の量を増やそうとしているのか、あるいは、こっちをカットしてこっちを増やすということも考えておられるのか、この表からはその方向性が見えてこないのです。非常に一生懸命たくさんやっておられます。しかしもっと1億3000万なら1億3000万を効果的に活かせる形で、指導しながら出していただきたい。その辺のお考えがもしあれば聞かせていただきたい。

事務局

直接的に推進会議の審議の事項ではないかもしれませんが、委員がおっしゃったことは誠にもっともであります。私どもも問題意識として従前から持っておりまして、総合政策部の中に行財政改革課というのがあります。2年前に補助金の審議会を立ち上げまして、実はその議論はやっております。一つは地域ということに目を据えていったときに、たくさんの流れで、資料2としてお配りしているように、それぞれの所管の方から複雑な矢印がいつていますね。これは複雑になればなるほど、要は縦割りで出していつているということになるわけですね。これを何とか整理しなければいけません。それは、委員がおっしゃったように、我々からしても効率的な税金の使い方になっているのかという観点、それと地域からにとっても、ある団体によっては全ての事業を一つの事務局の中で処理しているにもかかわらず、縦割りでおりてくるがために、事務をいたずらに煩雑にしているという現状があります。そういうことが浮かび上がってまいりましたので、統合できるところは出来るだけ統合型の補助金に持っていくべきだろうと審議会の一定の方向性が出ております。それからもう一つは、今度は推進会議のマターになると思いますが、こういう現状のお金の流れを、地域としてどういうお金の配分であれば、あるいは、どういう仕組みであれば、おっしゃったように1億円が1億円の価値を、あるいはそれ以上の価値を発揮できるのか。こういうふうなことを、是非ご議論いただきたいというふうに思っております。

会長

はい、そうですね。おそらく、今おっしゃった話をこれからここで議論することになるのだらうと思います。こうやって団体もそうですし、補助金もそうですが、こういう形で市役所の各課が、自分たちが地域にやって欲しいことのために組織を作り、補助金をつける形ですと今までやってきたのですね。それが地域の住民の皆さんにとって

みると、例えばここでも出ていましたけれど、自治会の方もコミュニティの方も、それで事務作業が煩雑になってしまいます。それから、似たような仕事を複数の部署からの補助金でやっていかなくちやいけないということでヘトヘトになる状況があります。これはおかしいのではないのでしょうか。では、行政の立場から言えば、補助金の効率的な、効果的な補助金とはどういうものなのでしょうか。この会議としては、皆さんがどういうお金であれば使い勝手がいいのでしょうか。使い勝手のいいお金の仕組みというのも、いずれここできっちり議論をしていかなければいけないだろうと思っています。ただ一番辛いのは、お金があるから何かやる。そうじゃないのですよね。何かをやるからお金があるのであって、何かをやるという地域の課題をまず見つける仕組みみたいなものをここで議論していくことになるのかなと思います。初めにお金があるという話しから入ってしまうと、どうしても多い、少ないという話になってしまいますから。何かをやるためにお金がいる。その何かをやるという仕組みを考えると、まず今日の議論をスタートさせたいと思っています。いかがでしょう、この二つのことについて、ご質問ありますでしょうか。

委員

地域への配分の話ですが、均等割とか人数割とか、先程、委員がおっしゃったような、いわゆるメリハリはあるのでしょうか？
あるいは「この地域は今年度これをやるから少し高く」のような加配などは？ おそらくは、一定額の基本額にくわえ、住民の数によって配分する、というパターンかと思いますが。

会長

基本的には、人口割とか世帯割という感じですか。

事務局

コミュニティを所轄しています地域・相談課の方からお答えさせていただきます。先程の議論に出ておりましたが、現在、1コミュニティに97万円の補助金、それから2小学校区をお持ちのコミュニティには、ほぼ倍額の補助金が出ているということになります。この分についてはコミュニティができる前には、体育振興事業とか、プール開放とか、こういったものに補助金が出ておりました。それから文化祭等をやるための補助金も出ておりました。そういった部分につきまして、コミュニティが結成された際には、こういった体育振興補助金それから文化補助金を一緒にした補助金ということで、あと運営の補助金ということでコミュニティ補助金の総額が決まりました。まだコミ

| | |
|-----|---|
| | <p>ユニティができていない小学校区がありますが、この分については、体育振興事業等の費用が出ております。そういった意味では、ある程度こういう事業をやりますというのがありますが、今現在につきましては、それプラス色々なコミュニティで事業をされていますので、97万の中でそれぞれの地域で色々な行事をされているのが現状でございます。</p> |
| 委員 | <p>全額、均等割ですか？ 人口の多い少ないにかかわらず、全コミュニティ均一なのですか？</p> |
| 事務局 | <p>定額です。</p> |
| 委員 | <p>そうなのですか。</p> |
| 委員 | <p>組織によって、ちょっと違うのです。自治会は細かく自治会ですが、PTAさんは小学校区なのです。青少年育成市民会議も小学校区ですね。子ども会はバラバラです。青少年補導委員会もコミュニティの数です。地区福祉委員会は小学校区でよろしいですよ。民生委員児童委員は5地区に分かれています。老人クラブは、南地区、中地区、北地区の3つに分かれています。自主防災会は小学校区。防犯協会は細々言いますと、大昔の交番所の数です。今現在無いところもあるのですが、昔の組織の数です。だから少し多いのです。それと、生活安全推進連絡協議会も小学校区です。環境衛生推進協会もコミュニティの数。体育指導委員も小学校区の数、人数は各地区2名です。人権啓発推進委員会も小学校区の数。ジョイフル・フレンド・クラブも小学校区の数。ジョイフル・フレンド・クラブは、もともと県が半分、市が半分という助成金の流れであった「ひょうごっこ兄弟づくり事業」というものがあって、県からも市からも助成金に来ていたのです。県の助成金は無くなったのですが、市の助成金だけが残ったということです。</p> |
| 会長 | <p>そういう団体が様々な形で事業をして、コミュニティの協議会としては定額でお金は出ているという形なのですね。</p> |
| 事務局 | <p>そうです。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>ちなみに自治会報償金の交付金額です。1自治会あたり1万円の均等割。それと1世帯あたり140円の世帯数を合わせた金額。ですから、均等割と世帯数割を合わせた金額となっています。</p> |
| 会長 | <p>はい。このようなお金の流れになっているのだということで、よろしいでしょうか。</p> <p>とりあえず、この2つの資料については、これを脇に置きながら、次の議題に入っていきたいと思えます。前回もご報告させていただきましたように、川西における参画と協働を進めるためには、今どんな状況になっていて、何が課題なのかという、課題出しを今日で最後にしていきたいと思っています。今までの議論、ここで行った議論もありましたし、それから条例を作るときのワークショップの方でたくさんの課題が出たりしていました。これらを資料3で、事務局のほうで整理していただきました。これをベースにして、これに追加するという形で、今日は議論を進めていきたいと思えます。資料3をご説明いただけますか。</p> |
| 事務局 | <p>失礼いたします。それでは「資料3まちづくりの主体別に見た現状課題の整理」について、ご説明させていただきます。</p> <p>この資料は、これまでの委員の皆様のご議論や前々回ご説明させていただきました条例を作るときの「協働のまちづくりワークショップ」の実施報告書の中のご意見から抽出をさせていただき、主なものをこちらに書かせていただいております。全体的には、地域課題の解決に取り組むまちづくりの色々な主体の役割、特性であるとか、現状、課題を記載しており、まちづくりの主体のほうを大きく5つに、市民と地域団体、ボランティア、NPO、事業者、行政というふうに分類しております。現在、基本計画の策定に向けたご議論をお願いしているわけですが、その元になります参画と協働のまちづくり推進条例で、概ねこのような主体の役割を明記しているわけでございます。</p> <p>この資料についてですが、まず市民のところですが、こちらでは市民の役割ということで、自らがまちづくりの主体であることを認識し、地域社会における生活および多様な社会経験を活かし、自主的に参画と協働のまちづくりに参加するというのを条例のほうで主体の役割として明記させていただいております。それから、特性のほうですが、これは条例に規定されたものではありませんが、まちづくりに関心をもって社会的、公共的課題を自ら考え、行動できる個人、と特性</p> |

を書かせていただいております。現状と課題といたしましては、地域や行政に無関心な人が多い、地域参加へのきっかけがない、コミュニケーションを図る場が少ない、お互い様の精神や人情味というのが薄れてきたのではないかと。ふるさと意識、地域に対する愛着が少ないのではないかと出ていたかと思えます。

それから次に地域団体ですが、その役割といたしましては、地域の繋がり、自らの持つ知識及び専門性を活かして様々なまちづくりを主体と交流し、または連携しながら、参画と協働のまちづくりの推進に努める、と条例で規定してございます。その特性といたしましては、一定の地域を基盤として地域に根ざした活動をしている団体であるということかと思われまます。それから現状・課題のほうですが、まず自治会加入率の低下です。また住民の高齢化によって地域活動に支障が出ている。若者の地域活動への参加が少ない。活動者が固定している。PR力が弱いのではないかと。また人材の育成、発掘、活用が弱いのではないかとというようなご意見が出ていたかと思えます。

次に、ボランティア、NPOのところですが、条例に規定している役割といたしましては、これは地域団体と一緒にですが、地域との繋がり、自らの持つ知識、専門性を活かし、様々なまちづくりの主体と交流し、または連携しながら参画と協働のまちづくりの推進に努めるという役割を規定してございます。また、特性といたしましては、社会的使命の達成を目的に、社会に利益をもたらす活動を展開する団体である、と考えております。また、現状、課題といたしましては、活動基盤ですね、資金面、人材面、拠点、この辺が弱いのではないかと。あとは、事業者や地域団体との協力や連携関係が少ないのではないかと。それから、他団体、同じNPO同士の交流の機会が少ないのではないかと。そういったことが挙げられていたかと思えます。

次に事業者ですが、条例に規定している役割といたしまして、地域社会を構成する一員として、自主的に参画と協働のまちづくりに参加するよう務めることが規定されてございます。また特性といたしましては、組織や個人が行う生産、営利などの一定の目的をもった団体ということかと思われまます。現状・課題といたしましては、まちづくりへの取り組みが少ないのではないかとか、例えば、事業者さん、商工会さんなどがイベントをする際の市民参加が少ないのではないかと。また、そういうイベントする際に、事業者の域を超えられないというジレンマがあるというお話も前回出ていたかと思えます。

それから、行政につきましては、これは条例のほうでは役割ではな

くて、責務という表現をしております、まず1点目としては市民等と連携し参画と協働のまちづくりを推進すること。2点目としては、政策等の立案、実施及び評価の過程において、その内容効果等を市民等に分かりやすく説明する責任。説明責任です。それから3点目としては、市民等からの市政に対する質問、意見、要望等に対し、適切かつ誠実にお答えする、応答責任が書かれております。行政の特性といたしましては、公益や公平、中立性のもと各種行政サービスを提供する公共団体ということです。現状と課題ですが、まずは職員の参画・協働に対する意識が低いのではないかと。情報提供が不足しているとか、庁内での情報共有が不足しているという話もあったかと思えます。また、先ほどの色々な補助金のこともありましたが、縦割り組織によることの弊害もあるのではないかと。こういった意見が挙げられていたと思えます。

またこちらのほうで特性を出させていただいたのですが、これは特に条例に規定されているものではなく、他市のプランを参考に書かせていただいたものですので、川西市のそれぞれの主体の特性もたくさんあるかと思えます。また色々ご意見をいただければと思えます。以上でございます。

会長

はい、ありがとうございました。冒頭に申し上げたように、課題出しというセッションは今日で一応終了したいと思えます。そして、その課題をどう今後解決していくのか、という解決策を具体的に検討していこうということになります。今日はこの資料3をベースに、特に現状・課題に挙げられていることにもっと付加していくべきもの、それから特性というもの、特性というのは川西で今後活かしたいこととなるのだと思えます。それについて少しご意見を頂ければと思っています。

それと共に、先程、絵を見ながら思っていたのは、ここにぐるっと丸を描いてしまうと、例えば地域団体と事業者の関係、それからボランティアNPOと事業者の関係、連携・協力というところに出ていますが、ここの課題出しというのものもあるのではないかと思っています。事業者と地域団体が連携しないわけではないし、今までもやってきているはずですが、これを今後もよりやっっていこうとすると、どんな課題があるのか。この連携・協力というところが全部にくっついています。この連携・協力が。たぶん今後施策としては重要な部分であるかと思えますので、この連携・協力の現状と課題というところにも、意識

をしていただきたいと思います。これは地域団体と事業者という関係や、市民と事業者という関係もあるはずですが、要するに横だけではなくて縦横斜めの話もありますので、それも意識していただきながら課題出しを中心にご発言をいただければと思います。日頃の活動の中でお感じになっているご意見を、ここに書いてあるもの以外で、あれば是非お出しいただきたいと思います。この際、前回議論の引き続きで市民活動センターの方にもご出席いただいております。どうぞ、その立場からご発言をいただければというふうに思っております。それでは、どうでしょうか。

委員

私は私なりの考え方でお話ししたいのですが、少子高齢化というのが進んでいるわけです。やはりこれからの自治を考えると、将来5年10年先はどうなるのだろうということを考えて、今からそういうことを今後の課題という形で検討していく必要があるのではないかと思います。例えば、私が考えているのは、一つは相談の窓口。地域での相談の窓口というのは、色々な地域での出来事がありますよね。心配事とか。そういう窓口を設けて、将来は広域な立場で、ひろばを設定して意見交換をできる場というのも必要だろうし、市民活動拠点の、大人も子供も対話できるような場が必要だろうし、そして高齢者が高齢者を支えるシステムというのも作っていかねばならないと思います。相談窓口というのが必要じゃないかなというのが1つです。2つ目は、誰もが気楽に集まって、悩みや情報交換が出来る場、いわゆる高齢者、障害者、子育てのための居場所というのも考えていかねばならないと思います。これが2つ目です。最後3つ目が、やはり5年10年後を考えた場合は、ボランティアというのが主になってくると思うのです。例えば、高齢者が増えてきまして、国あるいは行政のほうも、施設が満杯になってきて、はみ出す地域もあると思います。そのはみ出した人たちを、どういうふうに地域でフォローしていくか。こういうことが起こると思います。そういうときに我々が助け合うボランティアが必要だろうと考えているわけです。そのように、将来5年10年先を考えると、今言いました3つの問題が今後の課題として考えていく必要があるのではないかと私は思います。

会長

今、具体的に、悩みや情報交換をする場所、それから居場所、そしてボランティアを具体的に検討していくというそういう3つの課題を挙げていただきました。これは主体別というよりも、相談窓口とか

| | |
|----|---|
| | <p>居場所というのは、つまりこれは全体にですよね。全体の課題ということであり、一つはそういう場所を作らなくてはいけないということから言いますと、解決策についても語っていただいたのかなという気がします。その具体的な場所の広がりというのは、オール川西ですか。</p> |
| 委員 | <p>そうですね。今の段階では、地域が中心になって。</p> |
| 会長 | <p>地域というのは、だいたいコミュニティですか。</p> |
| 委員 | <p>そうです。それがどんどん大きくなって、市全体になるというふうな形で考えていけばいいのではないかと思います。</p> |
| 会長 | <p>なるほど。という具体的なお話を頂きました。いかがでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>地域に関することなのですが、活動の拠点が確保できていない地域があります。それは、一つには、地域活動を担う方々が、例えば福祉委員会の役員さんなどが、事務局として集まれるような場所、それからサロンとか食事会など、みんなが集う場、そういう大きな拠点が不足しているという現状があります。これは地域によってある程度確保されているところもありますが、まだまだそういった活動の拠点確保というのが必要だということが言えます。</p> <p>それともう1点は、地域活動における財源が不足しているということです。それぞれ地域の中で、社会福祉協議会ですと、社会福祉協議会の会員会費を自治会の協力を得て集めていただき、集めていただいた会費の6割が地区福祉委員会に配分されています。また、それぞれの福祉委員会でバザーとか収益の活動をされていますが、今後益々活発に活動していくには、資金が不足していると言われている地域もあります。地域によって若干の違いはありますが、そういった部分がみえるということです。</p> |
| 会長 | <p>はい。具体的に活動拠点が無いところもありますね。財源がどうしても不足しがちであったりするというようなこと。これは、主体別というよりは、むしろ地域でこれから活動していこうというときに大きなネックになるものとして存在しているということだと思います。</p> <p>いかがでしょうか。</p> |

委員

行政の問題として一つ申し上げたいのですが。非常に一生懸命やっ
ていただいております。感謝しております。現状・課題の1、2、3
ももっともだと思います。

私はまちづくりの為に、自治会の果たしている役割は大きいと思っ
ています。ところが自治会は、一方で97%加入率の所もあれば、半
分以下の所もあるのですね。自治会の加入率の低い所をもっと高くす
るということは、それなりの力になると思います。行政との絡みで申
し上げますと、その自治会の活動の弱い所、加入率の低い所は、引き
上げていくような方向付けを持ってもらいたいと思います。先ほどの
お話で、均等割の1万円、世帯あたり140円、これを加入率の如何に関
わらず出しておられるとすれば、これは、この際見直すべきではない
か。例えば、加入率が半分しかないところでは、世帯あたり140円の
50%をカットするとか、高い所はたくさんあげましようとか。そうい
う誘導をしていくような仕掛けをしていく必要があるのではないで
しょうか。攻めの行政を是非やっていただきたい。誤解している所が
あったらお詫び申し上げます。一つの例として、戦う行政になっても
らいたい。

それから、地域団体である私たちの自治会としての反省点として、
「うちのうち、よそはよそ」という悪い割りきりがある。ところが、
周りを見ますと、ものすごく進んでいて立派にやっている自治会もあ
るのです。もっと見習わなければいけません。しかし、見習えと言っ
ても、なかなか見習おうとしないのです。たとえばグリーンハイツ自
治会などはすごく進んでいます。役員も1年で燃えきっています、一
生懸命ね。うちなんか、だんだん初心を忘れて、変な慣れが出てきて
しまっている。悪口を言っているわけではありませんが。よそのやり
方やよそのシステムを見習わなければならない。そういう意味では、
もっと自治会同士の交流が必要なのです。それも行政さんばかりにお
世話になるのもいけません。そういうような仕掛けづくりをもっと
もっとやってもらいたい。強力にやってください。良い事は素直に従
います。

会長

はい。という自治会の現状、その中で出てくる課題ですね。やはり
自分の地域に熱心であるあまり、他の地域を見ない。自治会同士の交
流、あそこはこういう事をやっているのだなという情報の交換である
とかを今後もやっていかなければならないだろうし、それから自治会

| | |
|----|--|
| | <p>の加入率をあげるような攻めの行政というご意見でありました。どうでしょうか。市のほうで何か意見はありますか。というよりは、むしろ自治会の位置づけというのが、これは行政にとってみると、少し、中途半端という語弊がありますが、あくまでも任意の団体で自主的にいろいろな活動をやってらっしゃるのだという手前の部分がありますよね。だから、積極的にはなかなか、支援をしているということではないのですね。あくまでも自主的な活動に対しての支援ですよということになるのだらうと思います。やっぱり任意の団体なのだというのがネックにあるのだらうと思います。</p> |
| 委員 | <p>先ほどのお金の流れですが、あれは自治会数を、毎年4月に申告するのです。それに対する世帯数ですので、入っていない人の世帯数は算定に入っていないのです。</p> |
| 会長 | <p>もともと入っていないということですね。</p> |
| 委員 | <p>自治会から申告しますので、それに基づいてという形で。</p> |
| 会長 | <p>ということは、一応のインセンティブはあると。</p> |
| 委員 | <p>これ、自治会の中で呼びかけてもなかなか入ってこないのです。うちの自治会の加入率は97、8%です。100%にはなっていないのですがそれに近い数字になっています。それなりに、自分たちでやらなければならないことはやっています。四苦八苦しなうながら。しかし、私が見ていて、もっと全体的に自治会活動が活発になれば、まちはもっと加速度がついて良くなっていくと思います。自分で自分を良くしていくのです。私が誤解していた点は謝ります。行政として誘導していただけるような仕組みがあればなど。地域に対するひとつの例ですが。</p> |
| 会長 | <p>先程もありましたが、「うちのうち」と他を見ないというところを、例えば、ある自治会の加入率は高くなっているのはなんでなんだろうという情報が地域で色々と分かってくればいいなあとと思います。この前も少しお話がありましたが、自治会同士の交流ということで、市民活動センターのほうでは課題みたいなものはありますか。</p> |

| | |
|----------|---|
| 事務局 | <p>自治会同士の交流ということで、先程、委員の方もおっしゃっていましたが、グリーンハイツとか清和台、大和というような大きな組織、特にグリーンハイツというのは5,000世帯の会員数を持つ自治会ですので、そういった意味では、行政的なことをしっかりされております。一方で、中には、小さな何十世帯の自治会もございます。グリーンハイツというのは、5,000世帯で70万円以上の報償金が入ってくることになっています。交流とおっしゃいましたが、大きな所、清和台、大和、グリーンハイツは三つの自治会で交流的な研究会、情報交換をされています。それで、防犯カメラの設置なども進んでいる自治会かと思っています。ただ小さな自治会は、なかなかそこまではできていないのが現状かと思えます。自治会の加入離れについては、班長が回ってくる、入ってもメリットがないというところが多いと聞いております。</p> |
| 会長 | <p>はい。この加入率というものの低下という課題がここにも出ております。どういうふうに施策としてなのか、それとも市民同士の交流によって、もっと高めていく方向になるのかというのは、またあらためて議論しなくてはならないかもしれません。それだけに市としてというより、むしろ活動センターとしてはどうですか？</p> |
| 市民活動センター | <p>ちょっとポイントがずれるかもしれませんが、センターとして自治会の皆さんにお声がけをして交流の場を持つというようなことは、今はありません。しかし、例えば、助成金講座などを広報かわにしにも掲載させていただき実施しております。今なら、阪神北県民局が出されている助成金を中心に講座を実施しており、みなさまの活動の側面支援、情報提供をしています。自治会のケースならば、助成金を使ってどういうふうに事業を組み立てたらよいか、例えば、阪神北県民局が出している助成金は、他団体との連携を推奨する機会が多いので、連携先の団体のご紹介など、そういう形のサポートはさせていただいています。現に今回の助成金講座では自治会の方はお見えになっていなかったのですが、去年は結構来られていました。社会福祉協議会のひだまり基金では、自治会やコミュニティの方がご申請になっていて、そういう所で公開プレゼンの場でお互いによその活動を知るということで、自治会同士の高めあいで、それぞれの自治会の活性化は可能なのではないかと思えます。</p> |

| | |
|----------|---|
| 会長 | <p>お互いの交流の機会ということ、限られてはいますが、それを行っていることはやっているのだということですね。</p> |
| 市民活動センター | <p>そうですね。大きな枠組みで、助成金講座とかそういうふうな情報提供という形で「場」をつくっております。助成金講座では、助成金とは何でしょうということから、書き方のサポートだけではなく、その場に来られた皆さんとの交流を図っております。7月にもやりますので、そういう場を活用していただけたらと思います。</p> |
| 会長 | <p>そういう情報をどうやって流すか、その情報をどうやって受け止めて、活動センターまで自治会さんなど様々な団体が出かけていくという時の心理的なコストをどうやって下げていくか、というのも大きな課題かと思います。</p> <p>いかがでしょう。他に、今は地域団体が中心になっていますが。</p> |
| 委員 | <p>自治会の交流についてですが、わたしのところでは、小さい自治会から大きな自治会まで15の自治会があります。自治会は、まずコミュニティの中では交流は図っているのです。単独的にご相談というのは、ありえるかもしれませんが、私たちコミュニティは心配していませんね。自分の地域の中の自治会というのは、運営委員会を開いて交流の場を図って情報交換していますし、共有していますから別にそんなに問題ありませんし、何か地域で問題があると、各団体がそれを提言して、こういうことをやりますから来てくださいとか、こういうことがあって問題があるのだとなりますから、別にそんなに問題を感じたことはありません。交流していないとも思ったことがないのです。大きい清和台とかグリーンハイツとかありますが、コミュニティによって色々特性があって、大きい自治会が、清和台なんかはそうですね、清和台自治会が殆どコミュニティを占めているわけです、人口では。清和台自治会が全てコミュニティを図っていると。誘導しているとか、引っ張って頂いていると。そういったこともあります。そういう意味では、大きい自治会＝コミュニティですから。自治会長が強い地域とコミュニティが強い地域と両方という所と、色々地域性があります。でも私はコミュニティの会長会で話をする限りは、それ程、自治会が孤立してしまっているような環境にはないと私は思っています。</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>ちょっと視点が違いますが、たしかにコミュニティの場を通じての交流があるのですね。ただ、その交流の中身がちょっと違うのですね。自治会のあるメンバーがコミュニティに入って活動をしています。それを交流と言えば交流です。しかし、コミュニティの場で話し合ったことが自治会でフィードバックされている度合いはというと、全然違うのですよ。何も言わない人もいるのですよ。何のためにコミュニティに出ているのだと思いますね。そういう面での交流ももっとやらなくてはいけないと思います。うちの自治会が入っているコミュニティの内容はわかっているのです。分かった上で、「よし、あそこを見習ってやってやろう」とその気になってほしいのですよね。どういう自治会が集まっているかというのは皆承知なのです。7つの自治会が入っているのですが、知り尽くした上で「よそはよそ」というならまだわかります。ところが、グリーンハイツとか清和台とか組織的にも、費用面でもきちっとやっている自治会があるということすら知らない人がいるのです。自治会としてもっと知って、自治会同士の付き合いをすべきです。例えば、グリーンハイツは消防車を持っているのです。だから地震で本部の消防署が動けないときでも町の中でそれなりの火消しはできます。うちにはそれがないのです。だから道路が寸断されたら消防士が通れない。手押しポンプ一つ無い。だから、ミニ消防ポンプぐらい一つ持たなきゃいかんと言っておるのですけど。お金が無いから出来ないのですね。盆踊りには使うのですけどね。今のことばかり考えて、起こるかも分からない、起こらないかも分からない火事のために消防の道具は買わなくていいと思わないまでも先延ばし、先延ばしになっている。もし明日、隣の家で家事になったら、消防が来る前に燃えてしまいますよ。だからそういう危ない橋を渡っているのです。そういう面でも、よその自治会をみて「うちもこうしないとイケない」と。盆踊りの費用を半分にしたり、その為に積み立てをしなくてはいけない。そういう意識を変えていく必要があります。見るもの見て、勉強しなくてはなりません。</p> |
| 会長 | <p>コミュニティの枠を超えて自治会が交流する、そういう必要性があるのではないかということですね。</p> |
| 委員 | <p>私のところでは、隣のコミュニティと一緒にお祭りを年に1回やらせていただいています。その際には、隣のコミュニティとも、役員だけではなく一委員までお友達になるということもあります。そういう</p> |

ふうに交流の場を作る必要があります。やっぱり人間と人間との接触がないとダメだと思います。地域性もあると思いますが、老人が多くなって、車の免許を皆さん返上されて、歩くのも不自由するようになったときに、私の地域は特に地形に高低差があるのです。拠点の地域が私の小学校区の端にあります。交通手段が無いと「文化祭でも体育祭でもワシは行きたい」ということを言うてくださっていても、「来年は行けないだろう」と言われます。「どうしてですか」と聞くと、「歩いてここまでくることができない」と。それじゃあ迎えに行けばいいと思うのですが、何十人、何百人となると、なかなか出来ません。よそのコミュニティで、お祭りをするというときに、お金を出して、コミュニティでバスをチャーターしてやっているところがあります。見積もりを取ると、やはり10万以上するというので、寄付でも頂かないと私のところでは、それは無理ですね。やっぱりこういうコミュニティバスをこれからは充実していただかないと、なかなかイベント等にも足が向かないということになります。阪急バスがうちの地域は半分だけ通過しているのです。だから、半分は行けるのですが、結局下から上へ上がる人が全部だめだということになっています。

それから、60歳、70歳の人に説教して、今更自治会に入ってくださいと言っても中々難しいし、地域で一緒にやりましょうというのも中々難しい。だから、子供の地域性というものを見つけていこうということを考えています。わたしたちが子供教室というものをやっているのは、それを活かして、きっと大人になって「自分が子供のときに、大人が色々教えてくれたな」という記憶を付けたいと思っているからです。そういうことを子供に向けて発信したほうがいいのじゃないかと考えています。

心配なのは、老齢化して、今の70歳くらいの方が一番元気かな、その方たちが若い時に地元の盆踊りを一生懸命やっていた世代なのですね。それが70歳くらいになると、だんだんしんどくなってきたということで、人集めといっても子供も少ないということで、伝統的に続いていた祭りが、ちょっと減りつつなんとか頑張っている、という状態を何とかしないといけないというのが私たちの地域なのです。コミュニティでやってくれと言われるのですが、コミュニティでやってしまうと、その地域のものを潰してしまう恐れがあるということで、「その地域で出来ない」と手を上げたときに、コミュニティがやりますと私は言っています。やっぱりその辺の難しさ、やればいいというものでもないし、続けられるように何とかコミュニティが自治会に

| | |
|----|---|
| | <p>対して応援をしていく方法を考えないといけないのかと思っています。</p> |
| 会長 | <p>コミュニティが自治会の支援に入っていくという場面もこれから考えられるということですね。</p> |
| 委員 | <p>高齢者の問題については、これからも考えていかななくてはならないと思います。それはどういうものかということ、自分が今50歳になり60歳になり5年、10年、15年、20年となったときに、自分が80歳、90歳の年齢になるわけですよ。その時に、年寄りの事をやっていたら「何もしてくれていない」という発言があると思うのですね。だから、自分が今から年をとるために、何をすべきなのかと考えないといけないと思います。さきほどの話と関連するのですが、清和台と大和とグリーンハイツは、自治会も3グループで、2ヶ月に1回くらい打ち合わせをしている。福祉部会もやっています。</p> |
| 会長 | <p>部会同士でやっている。</p> |
| 委員 | <p>そうです。明峰も入って4つの地区で福祉部会をやっている。コミュニティの方も、大和、清和台、グリーンハイツ、この3つでやっています。その特典というのは何でしょうか。一つの自治会で考えても結論が出ない問題があると思います。例えば今、後見人制度がありますよね。高齢者の後見人は、裁判所がOKしなければなることができません。我々としましては、北部地域の後見人制度というものをシステム化していこうと考えて、NPO法人を立ち上げるかということ、今考えています。ある人が東京大学のほうに行きまして、勉強されて、終了証書をいただいた。ということで、後見人の事をやらしてもらおうかと思っています。二つ目は、高齢者となると、24時間在宅医療というものを考えていかなければいけないと思います。これも3つあるいは4つの自治会で話し合っ、そういう在宅医療ということを考えてやっていこうじゃないかと。ある医者の方から、「ぜひ地域でやってほしい」と言われています。北部地区でやるのは、認知症、徘徊の問題ですね。こういう徘徊の??センターというものを北部地区でやっていこうと。これは北部の7地区でやろうと考えています。最後には、地域資源のマップづくりということを考えています。問題は、4つなり3つなりの地域が打ち合わせして初めてできることなので</p> |

| | |
|-----------|--|
| | <p>、1つの地域でやるといってもなかなか難しいです。そういう特典がありますので、他の皆さん方も考えてみたらどうかと思っています。</p> |
| <p>会長</p> | <p>自治会はどのようなのですか。自治会からコミュニティに移そうとしているのですか。</p> |
| <p>委員</p> | <p>清和台は、自治会は自治会、コミュニティはコミュニティ、婦人会は婦人会の独自の形で、やっています。</p> |
| <p>委員</p> | <p>あくまでも自治会ということですか。</p> |
| <p>委員</p> | <p>自治会とコミュニティは、違いはどこにあるのでしょうか。これが1つ。それと、自治会と福祉部会と民生、この3つはどういう関係があるのか。これは非常にややこしいですね。最初のコミュニティと自治会というのは、同じような動きをしているわけです。</p> |
| <p>委員</p> | <p>それは清和台が大きいからではないでしょうか。私たちのように中堅のところでは、自治会は均等で一緒にやらなければだめだということもあるのです。清和台には、清和台自治会以外にあと3つぐらい小さい自治会がありますよね。そこがついていっているのかということがすごく心配です。「わしの所は大きい自治会だ」と何かというとそれを言う人がいるのですが、災害の時もそういうことを言われたので、「災害に大きい小さいもないんですよ」と言いました。地域の代表が出てきてくださいと。そういう考え方で私はやっています。やっぱり清和台について、コミュニティで言えば、組織としては、3つか4つ小さい自治会がついているので、そこがちょっと遅れてやるのか、コミュニティとして考えるなら、そこを引っ張っていく力もあるのかなと思います。</p> |
| <p>委員</p> | <p>その一つとしてね、清和台自治会は、周辺自治会を引っ張っていくのだ、清和台自治会にしてしまおうと。こういう考え方もあるわけです。</p> |
| <p>委員</p> | <p>自治会イコールコミュニティという所は、それはそれでいいです。やっぱりコミュニティとしても役割があると思います。その場合にコミュニティがまだ十分に、うちの場合は力を持っていない。先程の交</p> |

通手段の問題でも、コミュニティではとてもやれません。私も同じようにお願いをしたいと思っています。うちの町は、東西に細長くて坂があるのです。そうすると、自治会館とかスーパーとかが坂の下にあるのですよ。今、皆、年をとって、行きはいいのですが帰りが難しい。これは大問題なのです。阪急さんと交渉して、何年越しもやっているのですが、採算が合わないということで、やってもらえない。市からお灸をすえて欲しいのです。そういうのも、攻めの行政ですよ。今、本当に皆さん困っている。そこを何とかしないとイケない。バスはある。しかしそれは能勢口からの巡回バスなのですが、一方通行なのです。町の中からの便からいうと、下りの便はあるけど、逆方向上りのバスがない。昔はあったけど、止めてしまった。何度交渉してもだめ。だから、それは行政の力で、阪急に指導してやって欲しいのです。うちだけの問題じゃないのですよ。例えば、今度近くに、宝塚大学が出来て広いスペースを持っている。今まで、施設の場所を借りて、敬老懇親会なんかやっていましたが、もう満杯で今年あたりはそこで出来ないから、大学のホールを借りようと思っています。そうになると、大学が坂の上にあるのです。だから皆さん行けないのです、お年寄りが。それで、施設にお願いして、マイクロバスを出して援助しましょうと言ってもらっています。いよいよ皆さん交通手段の問題は行き詰りつつあるということです。日常のことにぜひ行政の力を貸していただきたいと思います。

委員

以前この件で、兵庫県知事と「さわやかトーク」をした時に、その時に井戸さんが「よっしゃ」という感じで言われました。どうするかと思っていたのです。老人施設がバスを持っているのですよね。何台も。それが昼は空いているという状況なので、それを何とかして、利用できないかということ、そういった施設、協会ですかね、そちらの方に「私は言う」と言ってくれたのですけど。

委員

清和台は、やっているのです。

委員

やっているのですか？

委員

施設4つのうち1つだけですけど。清和台も坂が多いのです。何か行事があると、そのバスを走らせて、乗せてもらって、終わったら返す。非常に安い値段でね。

| | |
|----|---|
| 委員 | 安い値段ならいいですね。それならうちも。 |
| 会長 | <p>やっぱりこういう場でも交流が必要だということですよね。たぶん移動の自由をこれから地域で確保していくと思います。ものすごく大きな事ですね。コミュニティバスであったり、あるいはNPOが移送サービスに積極的に取り組んだりというようなことは、これからの地域の大きな課題だと思います。そういうなかで、規制緩和で路線バスの方は、出入り自由になっていますから、要するに、すぐ退出する傾向が強くなっています。だから、それを地域で支えていくということですね。移動の足を支えていくというのは、これからの地域の大きな課題ですし、その時には自治会、コミュニティ、それからたぶん事業者、先程も福祉施設の話がでましたが、私の知っているケースで言うと、昼間寝ているバスというと、工場の通勤の送迎バスですね。ああいうのも昼間寝ていますので、私の知っている所では、昼間、工場が社会貢献だといって、そのバスを地域に提供するというようなことをやっています。事業者の地域社会に対する責任というものを果たしてもらおうという、そんな形で色々な課題を、課題は地域によって違いますが、それをうまく解決していくような場でしょうね。コミュニティならコミュニティ、小学校区なら小学校区にそういうものが1ついるのだろうというのが今までのお話です。そしてそういうものは、コミュニティ単位なのか、あるいはものによっては自治会相互なのでしょうけど、そういう形で交流していく場というのは、絶対必要だと思います。地域課題の取り組みで、課題を解決するためには、交流の場が必要だということが、具体的な解決策になるものとして、今出てきたのかと思います。</p> <p>今、地域団体の話を中心になっていますが、例えば事業者として、地域団体であるとかボランティア、NPO、そういう所との連携・協力ということでの課題、あるいは、川西の事業者としての現状・課題。今後のまちづくりに対して、ここに書いてある以外で何かあれば、是非お願いしたいのですが。</p> |
| 委員 | <p>今、お話を聞いていて、さきほど何回もお祭りやイベントというお話があったと思うのですが、市民の抱える現状・課題というところで、総論的にいうと、地域離れや、市民の元気が無くて、あまり川西に興味を持っていないということが総論として書かれていると思う</p> |

のですが、そういった市民の目をこちらに向ける仕掛けというのは、お祭りとか祭典というものだと思います。盆踊りとかそういったものは1日や2日で終わる一過性のもので、年間を通してまちづくり全体が皆で関わっているような祭典やイベント。しかもそれは文化芸術的にレベルの高いもので。何も無い川西市ですが、市民のレベルを皆さんが上げるような仕掛け作りをこれからしていけば、良いものになっていくと思います。そういったもののコンセプトが未だ確立されていませんが、商工会のイベントでは、そういうことをしようとしています。ただ、まだまだ事業者の域を抜け切れないものですから、市民の方にも関わっていただいて、できれば、各コミュニティや自治会でそれぞれ競い合っているようにも聞こえたのですが、私達も同じ市民ですし、リーダーシップとまでは申しませんが、どちらかといえばそういったこともできるのではないかと考えます。そういった意味では、事業者としてはリーダーシップを町の中で発揮しないといけないし、機会を増やして市民の方と交流をしていかなければと思っています。そういうことは市民活動センターのお役目なのかもしれませんが。

会長

どうなのですか。また振られておりますが。

市民活動センター

一つ例として、センターの事業ではありませんが、私たち中間支援NPO法人の事業として、「つながりカフェ」という誰でもいつでもアポイント無しに寄ってきてOKという、毎回テーマを決めるでもなく、いい時間を過ごしましょうというラウンドテーブルを実はやっています。それがもう62回ぐらいなので、4年になりますか。とにかく誰か1人でもいればやりましょうということで、私どもの理事長の発案で始めました。今までに延べ人数で300人ぐらい。あとはメーリングリスト、それが200人ぐらいになっているでしょうか。自治体やコミュニティや行政の方なんかにもお越しいただいて、1年に1回の方もあれば、常連さんもおられます。毎回15人前後でゆるりと過ごしています。一度として同じパターンはありません。そこでは色々な方が来られるので、色々な情報の交流の場になっているというか、情報が行きかう場になっていて、何かしら情報のお土産がある。そこで、しゃべるもよし、しゃべらなくて聞いているもよし、温泉のような場だと言われています。そういう、やらねばならないマストではなく、ちょっと行って話してみようかという場があればいいのではないのでしょうか？誰かがお世話をするというわけでもなくホスト役もいない。飲み

| | |
|----------|--|
| 委員 | <p>物なども自由で。そういう気楽な意見交換の場があればいいのではないかなと、今のお話を聞きながら思いました。</p> <p>たぶん色々な事をお考えの方がたくさんおられて、そういった良いものを吸い上げていくという作業を誰かがやっていかないといけないのかなと思います。例えば行政サイドは、色々な所に視察も行かれて、色々な経験知識もお持ちですから、市民や事業者に対して、「こういう事はどうだ」と色々な提案をしてくださっています。当然そこには補助もあってさせていただくのですが、考えられたのは基本的に行政であったりするわけですから、我々自ら考えて動いて、「これがやりたい」といって動くのは結構少ないと思うのです。言葉が悪いかもしれませんが、下請けのようにになっている部分もあるかもしれません。できれば、色々な事を考えている市民の方がたくさんいると思うので、そういうことを吸い上げられて、「こういう事をしたいのだけど」という取りまとめを行政に提案されたら、かなり良いものができるのかなと思います。</p> |
| 市民活動センター | <p>先程、一つの例として、「つながりカフェ」のことを申しあげました。そこではテーマを持たずに話しているといいましたが、やはりそういう場だけでは足りないなと感じております。今おっしゃった様に、一つの方向性を持って、何かやっという時には、今のような議論をする場も必要だと思います。それがセンター事業で取り組むことなのか、中間支援NPOとして取り組むことなのかは分かりませんが、そういう話しあいの場のバックオフィス、事務局代行的なことはできるかと思えます。</p> |
| 委員 | <p>関連して、一市民としてお聞きしたいのですが、川西の商工会の業種としては、どういうものが、どんな比率になっているのですか。</p> |
| 委員 | <p>正確な数字は分かりませんが、元々は工業系が多かったです。商業、工業系が元々川西という地域には過去多かったのですが、ご覧のとおり無くなっていますから。今何が多いかというと、サービス業が一番多いです。サービス業といっても幅が広いです。資格業も含まれますし。入ってこられるのはサービス業が多いです。</p> |
| 委員 | <p>食べ物関係も入っているのですか。</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | 飲食関係も当然多いですね。 |
| 委員 | 川西というまちは、特徴の無いまちだと思うのですね。川西って何があるのですかという、イチジクくらいしか皆さんたぶん出てこなくて。このイチジクが実は今までたくさん採れていて、今もたくさんあるのですが、一度商工会の方で、イチジクのスイーツというものを出されたことがありましたよね。 |
| 委員 | はい、出していますし、今もイチジクに関する商品は色々と研究もされて、近々、今ここでは言えないですけど、また何か出てくると思います。 |
| 委員 | イチジク茶というのもありますよね。実は私もイチジク茶は好きです。川西が作ったスイーツはどういうものかなと思って取り寄せたことがあるのです。そのときにイチジク茶も知りました。まずスイーツのことからいうと、申し訳ないのですが、全然コンセンサスのとれていない内容でバラバラですね。ラッピングも取り合わせもすべてがバラバラで、商工会がとりまとめをできていないのではないかと思います。みんなで議論なさってこれを作られたのかと思いました。多分あれでは2回目とはとらないと思うのです。そのときにイチジク茶もあるということもたまたま知りまして、好き嫌いもあるかもしれませんが、私は好きです。友達に飲ませてみても、好きという人もたくさんいるのです。ただ、例えば柿の葉茶みたいにどういう効能があるとか、こういうふうに使えとか、そういうことを研究されると、もっともっと川西のひとつのヒット商品にならないかなあと考えています。そういうものを作るときに、商工会の中だけでなく、市民、特にスイーツなどは、若い人や女性に食べてもらって意見を聞いて、パティシエの方もいらっしゃると思うので、そういう方たちと盛り上げていくと、もっともっと特色のある良いものができると思います。川西市は本当に、これ、というものがなくて、ぜひそういうものを作りたいですし、作りたいと思っているのではないのでしょうか。 |
| 委員 | 商工会自体が、できてからかなり年数のある団体でもあるし、もしかしたら時代に若干対応しきれていないところがあるかもしれません。 |

| | |
|----|--|
| 委員 | しきれてないと思います。 |
| 委員 | <p>そういうところは変えていかなければと思います。コンセンサスというかコンセプトがはっきりしていないのではないかとということですが、今、オリジナルブランドの立ち上げということで、ひとつのブランドを掲げた中で、その傘下でいろいろなお菓子だとかワインだとかサイダーだとか、そういったものを統一された規格で作ろうとしているみたいなので、バラバラだったところはおさまってくるかもしれません。</p> |
| 委員 | その時にできれば外部の、特に住んでいる人の意見を取り入れていかれるのがいいのではないかと思います。 |
| 会長 | <p>今までの議論で情報がうまく回っていないというところですね。そのためには今日も一つなのかもしれませんが、大きなテーマはありますが、自分たちが今考えている事、やっている事を自由にしゃべる中で、色々なヒントが得られるだろうし、そういう場が全市レベルでも必要かもしれないし、自治会同士でも必要かもしれないし、コミュニティでも必要かもしれないということですね。あるいはNPO同士でも絶対必要な話ですね。NPOではもっと必要だろうと思っています。その中で相互に協力して、川西の課題を解決するためには、こことここで協力してみようかという話が出てくるのかなと思います。今日でいうと地域課題というペーパーがあったので、よってたかって、地域課題を解決する場を作るためにはどうすればいいのだろうかというところに議論が集中している気がします。</p> |
| 委員 | <p>同じ市民の立場として、今委員がおっしゃったことに付け加えたいのですが、例えば、イチジクワインは非常に良かったです、最初は。昔は売り出したとたんになくなるのが早かったのです。値段も1,500円位していたのが今は1,380円なのですね。自分たちが育てた商品をもっとしつこく激しくフォローしてもらいたい。それがひとつです。アンテナショップも一般市民から募集しましたね。あれは良いアイデアだと思いますが、一回限りでその後がないのですね。空きスペースがないからかもしれませんが。それからフリーマーケットも毎年やっている。これもいい事です。それを量も質も高めて、どんどん必死に</p> |

なってやってもらいたいと思います。勝手なことを言って申し訳ありません。商工業活動を盛り立てないと、まちづくりと言っても土台がしっかりしていないと、すぐにひっくり返りますよ。それで、例えば、市民が市の中で就職をするように仕向けていかないと駄目ですよ。例えば、卑近な例ですが、市民を優先的に就職させるとか。二人応募してきたら、一人は市民で一人は市外の場合、成績が少々悪くても市民をとる。給料も時給で出すなら、100円くらいの差をつける。いい意味でえこ贔負を絶対やらないといけないと思います。それぐらい腹をすえて、もっともっと市民のために活動していただきたい。今はすこし余裕がないかもしれませんが、頑張って市民にプラスになるようなえこ贔負をどんどんやってでも、盛り立てるようにすると、皆さん方の商売にもなるし、市の活性化に必ず繋がる。そこを抜いてまちづくりをやってもダメだと思います。是非お願いします。

委員

まずイチジクワインについて、私も勉強が足りないのですが、商工会ではないのです。JAさんなのですよ。ただ、一般の方がみると、JAさんがやっている商品、うちが企画している商品も同じなので、一緒に同じコンセプトでやればいいですよ。バラバラにやっているからおかしな事になるのだと思います。それはこれから変えていかなければいけない所だと思います。

委員

商工会は間違えているのかと私は思います。イチジクワイン、イチジク茶、私の地域は生産している南部の地区です。これは「ただのイチジク」というコンセプトだから駄目なのです。私たちの地区の生産者さんや生産組合の方は、「世界一のイチジクだ」と言っています。完熟のイチジクで、日本にもあまりないのです。そのグレードを上げないで、ただのイチジクで作っていますと言っている。全国でイチジクは作っているのです。イチジクの中でも「これは完熟でグレードが違うのだ」と言わなければいけません。宮崎のマンゴーみたいなものです。マンゴーはたくさんありますが、宮崎のマンゴーということでグレードが上がっている。そのグレードの上げ方が、市は下手だと思います。JAも下手ですね。宮崎は、宮崎県がネーミングを上げたのです。だから、行政とともに、皆が「川西の完熟のイチジクは違うのだよ。それを使ったお菓子ですよ。それを使ったお茶ですよ」と。そういうふうにしないと、ただのイチジクになってしまう。今は「ただのイチジク」なんです。生産組合もその認識はあるのですが、生産

| | |
|----|---|
| | <p>する商工会との話が一緒になっていないのだと思います。「ただのイチジク」という扱いは間違っている。「世界一のイチジクだ」と皆が思っていないだけの話だと思います。</p> |
| 委員 | <p>「増井ドーフィン」ですよ。そういう品種ですよ。</p> |
| 委員 | <p>それをもっとPRしないとね。かつてはイチジクがあふれていたのです。けど今は様変わりしてしまいました。川西のイチジクは由緒あるものだと思いますよ。それをもっと宣伝してアピールしないとけません。</p> |
| 会長 | <p>ブランドを作っていくのも、住民なのですよ。住民が外に発信するためには、自分が自信をもたないといけないから、「これは世界一ですよ」と商工会がPRするより、住民がPRしたほうが効くのでしょうか。だからそれに恥じないようなものをちゃんと生産しますよ。そして、先の話で言うと、それで地域で人が食べるようなものにする。食べるというのは職業としてです。イチジクをブランド化して、それでお菓子を作ったりしたら、その過程に関わっている人は楽しいし、かつそれで、若い人が何人か川西で職が得られるような所までいくという、そういうネタがたぶんまちづくりの地域課題の中にもあるだろうと思っています。事業者さんは積極的に取り組むし、行政はそれに対して支援もするし、市民はそれを積極的に、たとえば買うとか、PRするとかいう形で協力をする。今日はたまたまイチジクの話ができましたが、イチジクを例としてこういう場があれば色々なアイデアが出てきますよね。</p> |
| 委員 | <p>以前あるところで市の関係者に申し上げたのですが、産業を大事にしたり、名物を作ろうとしたりするのであればイチジク畑が無くなることについて、待ったをかけないといけないと思います。行政の権限でね。どうしても畑を手放したい人がいたら、それを市で買うなり、補助金を出すなりして、守るべきものは守らないといけません。そういう気概と闘争心を持っていただきたい。それが攻める行政です。なりゆきにまかせて大事に育ててきた産業をそこで衰えさせてはいけません。良いものは良いと世界にPRしていく。あなた方もグルになってやっていかないと。良いことはグルになってやってください。</p> |

| | |
|----------|---|
| 委員 | <p>今おっしゃっている事は大切なポイントだと思います。川西にあるものは少しイメージ的に低いです。イチジクも含めて。レベルを上げて、クオリティを高いところにもっていく努力をすると変わっていくと思います。イチジクを今から育てるといっても、どこの市も出来るわけではない。たまたまあるのですから、やはりそういう物は大切に残していくことがすごく大切だと思います。行政の方が主導権をもってやらないと、商工会だけでは難しいと思います。</p> |
| 委員 | <p>大丈夫です。商工会でやれます。甘えてばかりではいけません。</p> |
| 市民活動センター | <p>NPOの中には、作業所さんで美味しいお菓子を作っているところもあるのです。本当に品質が良くて美味しいのです。次回、商品開発の時に、うまくいくかどうかわかりませんが、そういうところで作っているお菓子もいれていただければと思います。川西阪急でバレンタインの時にでも、「川西のお土産ならコレ」みたいなコーナーができて、普通の商品と一緒に売られればいいなとそういう方たちとよく夢を語っています。</p> |
| 委員 | <p>市民と事業者の線引きを変に作らないで、やっていったらいいと思います。</p> |
| 会長 | <p>イチジクで盛り上がってしまいましたが、まだまだ連携・協力の部分をいくつも議論しないといけないと思います。一応19時で2時間になりますが、もうちょっと今日は議論をしたいと思っています。</p> |
| 委員 | <p>話題を変えてもよろしいですか。</p> <p>イチジクの話も面白いのですが、こういう事を、この限られたメンバーの会議で話すのではなくて、そのようなまちづくりの議論をあっちでもこっちでもできるようなシステムを考えるのが、この審議会の役割なのかなと思います。だから個別具体例ではなくて、少し別の議論をしませんか。</p> <p>資料3に戻って、3つのことを申し上げます。1つはこの俯瞰図は条例を元に作成されたとのことですが、言葉の定義など、条例と少し違う点があるのです。条例では「市民公益活動団体」という定義をして、その中に自治会、コミュニティ、ボランティア、NPOが一体的に入っています。この市民公益活動団体および事業者、これを「市民</p> |

等」という括りにしています。市民等と市とが連携協力して参画と協働のまちづくりを推進する、という構図になっているわけですね。

しかし、この資料3では、同じ市民公益活動団体であるはずの地域団体とボランティア・NPOとが分けて考えられていたり、キーワードであるはずの「市民公益活動団体」という文言がどこにも出てこなかったりするのです。これは書き直した方がいいかと思います。

さらに「市民」にかんする欄の表記で、その特性として「まちづくりに関心を持ち、社会的、公共的課題を自ら考え行動できる個人」と書かれていますが、その下側の「現状・課題」の欄に書いてあるのは、そういった人以外の大多数の方、川西には寝にだけ帰っている、まちづくりにあまり関心を持っていない層の話です。課題としては、そういう方たちに、まちづくりへの関心を持ってもらえるよう、地域団体やボランティア、NPO、CSRに関心のある事業者の方々がいろいろな仕掛けをしていく、というのが、参画と協働のまちづくりの基本的な構図だと思います。メニューは多ければ多いほど良いので、自治会が出すメニューで寄ってくる人もいれば、NPOが出すメニューで寄ってくる人もいれば、イベントで寄ってくる人もいれば、福祉の危機感をあおることで寄ってくる人もいます。どれが良い、どれが悪いという話ではありません。ですから、この部分は「まちづくりに関心のある市民をどうやって育成するか」という課題を設定して、図を書き換えた方がいいのではないかなと思います。

2点目。先ほど言いましたように、メニューはいろいろあったほうが良いのです。皆さんの話を聞いていると、地域によって随分事情が違うようです。ですから、今後の地域システムを考えるうえでは、いかに行政が「全市一律」とか「公平公正」にこだわらず、それぞれの地域にあったメニューを許容できるかどうか、が重要になってきます。行政の思考方法として、どうしても「全地域が同じように進まない」とだめ」とか「全市で同じやり方で」ということになりがちです。皆さんのお話から察するに、どうやら大規模な自治会は放っておいてもよさそうですね。しかし、自治会とコミュニティが一緒なところやコミュニティが強いところなどもあります。役員が変われば、状況も変わる地域もあるでしょう。参画と協働の地域自治を考えるときには、多様なパターンを想定することが大切で「こうあるべき」という押し付けではしんどいだろうと思います。

本来、この推進会議では、その議論をすべきではないかというのが2点目です。少し個別の話に入ると、私は「小規模自治会の支援」と

いうメニューが必要なのかな、と思いました。先ほども心配なさっていましたが、大きな団体の陰に隠れてしまっている小規模自治会は、コミュニティの中で交流するよりも、隣のコミュニティとかにある同じくらいの規模の自治会と交流したほうが、お互いのためになるかもしれないですね。そういう他地域とのクロスも含めた、いろいろな交流があっても良いのではないかと思います。

3点目。そういうことを考えていくと、資料3の図の「行政」の役割のところ、あるいは現状・課題のところ、つなぐ役割の意識の欠けているように思います。全体が見えている自治体が、もう少し攻めの姿勢で、「ここはここと交流したほうがいい」とか、「こういう場を設定したほうがいい」とかつないでいく、そういう積極的な役割を果たしてもいいのではないのでしょうか。「縦割り組織による弊害」が課題とてあげられているのですが、ほかにも「地域の多様性をいかに認めるか」という話や「コーディネーターとしての役割意識の欠如」などを課題に挙げていくと、問題点や解決策がすっきり見えてくるのではないのでしょうか。

会長

全体を見渡して、ご意見いただきましたが、私も特性の部分がパートによって違うなど思いながら、見ていました。市民はすごく望ましい市民の姿が書かれている。しかし地域団体は、特性はある意味、定義だけになっています。今、委員が課題にしたのは、行政の方の特性で、公益は当たり前なのですが、公平・中立性の下という、特に公平が行き過ぎていませんかということですね。これが地域の特性に応じた市民の様々な活動の頭を抑えている部分もあるのではないかと。一方では、きっちりと下支えをしているという意義はあるのだけれど、他方で、他のところが遅れているから待つてなさいよという作用をするという面もあるのではないのでしょうか。そういう意味では、特性の中での公平のありかたを検討しないといけないという課題提示だったのかと思います。特性というのは、今日はあくまでも仮置きですから、色々なレベルの意見があつていいだろうと思います今日はたたき台として、色々議論していただく前提として置いていただけですから、あまり気にしなくていいのかもしれませんが、今後まとめていくということになると、特性を、望ましい姿というふうに置き換えて、統一していくのか、克服すべき川西の課題としてまとめていくのかということを考えていかないといけないと思います。

委員

おっしゃったことに特段の異議はありませんが、あえて申し上げておきますと、先ほど、イチジクの話をしました。イチジクのことひとつの取ってみてもこういう問題がある、という例として挙げただけです。

それから、小規模自治会への支援の話がありましたが、それ以前の問題もあるのです。それは、怠けている自治会があるということです。具体的に名前は申し上げません。上から下りてくるお金をあてにして、もっと自分たちで、例えば共同募金を一生懸命集めれば、何割かは戻ってくるのに、それすらしないというところがあります。放っておいても戻ってくるからと、考え方の違うところがあるのです。ですから、それ以前の問題として、まず自治会のレベルアップをしなければいけないと思います。同時並行でやってもいいのです。ただ、それをやらないとますます怠けさせるということになってしまうと思います。

また別の問題として、ボランティアについても一言申し上げます。ボランティアに対して甘すぎると思います。ボランティアの団体が出てきたら、簡単に認知されてしまいますよね。誤解があったら言ってください。ボランティアとして本当にちゃんとした活動ができるのか、その審査を誰かがやって、メリハリをつけて、良いものは生む、悪いものは抑える、そういうことをどこかがやらなければいけないと思います。かつて、ボランティアの団体と話をしたときに、「ボランティアだから時間がない」と言われました。私は、ボランティアだからこそ、一生懸命やらないといけないのだと思います。ボランティアはそもそも、金と時間が腐るほどある人がやるものです。我々は庶民だから、残念ながら金はありません。しかし時間はあります。それを「ボランティアだから時間が無い。そこまではできない」、そういう人はボランティア活動をする資格はないと思います。言いすぎかもしれませんが、ボランティアだからこれ以上できないというのは、これはボランティアを毒しています。出てくるものを全てボランティア団体として認めて援助する必要はないと思います。生まれ出るところで規制するということも考えなくてははいけません。言いすぎだったらすみません。

委員

ボランティアとNPO法人は違うものだと私は思っています。みなさんはボランティアとNPOとの違いをどう理解なさっていますか。どんなふうに理解されているのか一度聞きたいのですが。

| | |
|----|---|
| 委員 | そんな質問をされても困るのですが。 |
| 委員 | 聞きたいのです、私。 |
| 委員 | <p>NPOというのは、表面上から見れば、非営利団体です。それを事業としてやっています。NPO団体として立ち上げて、その中で特定の分野で支援活動を行います。環境団体は環境の分野で支援するというように、色々な分野があります。17の分野でしたかね。ボランティア団体ではなく、ボランティアというのは、あくまで全て奉仕だと思えます。自らの意思で、何らかの形でこういうことをお助けしたいと目的があって、その為に参加して、それだけに参加するという事です。そしてそれが全うできたらやめるという形だと思えます。一般的な考え方かどうかはわかりませんが、その際に有償か無償かということが一つの線引きになると思えます。たしかに無償のボランティアと有償のボランティアがあるかもしれませんが、しかし、私個人的には、ボランティアというのは無償であるべきだと思えます。もし有償でやるのであれば、NPOを立ち上げて、特定の分野で色々な事をやるべきと、私は個人的には思えます。</p> |
| 会長 | 有償と無償でボランティアとNPOを区分するという考え方があり得るのではないかということですね。 |
| 委員 | <p>NPOというのは法人ですので、基本的には収入を得て、支出があります。ただ、一番大きな、企業との違いは利潤を追求しないということですね。NPOは社会的な使命感で立ち上げた団体です。ただ、資金がないと何もできませんし、やっぱり収入が必要です。だから法人形式でやっているのがNPOだと思います。そこで、NPOの内容を磐石なものにして、もっと色々な活動をしたと思えば、事業もやらなければいけません。しかし、「NPO法人です」と出て行くと「ボランティアではないのか。なぜお金をとるのか」とか「参加費が高いのではないか」ということを言われます。それは日本の社会がこういうものに対して、なかなか理解度が進んでいないということがあるのではないかということを感じています。ボランティアとNPOでひとつの輪でいいのですし、NPOも気持ちとしてはボランティアなのですが、やはり活動は、法人としての姿勢でやらないと続か</p> |

| | |
|-----------|---|
| <p>委員</p> | <p>ないと思います。</p> <p>私は、NPOはボランティアだとは思っていません。自治会、コミュニティ、地区婦人会。こういう団体は全てボランティアなのです。給料もらっていませんし、組織でもないし。ボランティアとNPOは違うという考えを持っているから、地域にNPOが来られても、違和感を覚えてしまうのです。</p> <p>3月11日の震災を見て思います。NPO団体が被災地に行っていますよね。今は、NPOが支えないと駄目なのですよ。それは、地域がもうダメになっているからです。自治会も崩壊、コミュニティも崩壊して、NPO団体の組織が行かないと、地域が成り立っていませんから。でも成り立っている上では、NPOは要らないのです。専門的な知識を持って、研修会をすとか、そういうところは来ていただいて問題無いのですが、地域を支えてくれるというのは要らないと思います。でも何か災害が起こって、地域や組織が崩壊しているときには、こういうふうにNPO団体が来て、支えていただかないといけません。やはり地域住民が力無く傷ついてしまっているのです、ある程度その地域の組織ができるまで、支えていただきたいというのはあります。ただ、地域が一生懸命支えているところに、NPO団体にきていただくというのは、私は必要ないと思います。要らないというより、そういう地域ではダメだと思うのです。支えていただかないといけないような地域では、地域がおかしいのだと思います。それでは地域団体が弱体化しているということ思うのです。</p> |
| <p>委員</p> | <p>委員のボランティアについてのお考えについてですが、ボランティアというのは、個人が主体性を持って、自分がやれる範囲での社会参加、社会貢献をしていくことになるのです。それぞれボランティアは、色々な立場や状況がありますので、委員のおっしゃるように時間が十分あるというような方もいらっしゃるれば、時間の無い中で、忙しい中でもその時間を惜しんで、その時間でやれる範囲の社会参加をしたいという方もたくさんいらっしゃるわけです。ですから、それぞれのボランティアの状況が違うので、ボランティアというのは自分が出来る範囲での社会参加ということになるので、ひとつにお決めになるというのではなく、もう少し広い範囲での理解をいただきたいと思います。</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>わかります。無限定的に言ったわけではありません。極端な言い方をしたかもしれませんが、「時間が無いからできない」と「できない」ということを簡単に言うなと言いたいのです。本来一生懸命にやりたいからボランティアに手を挙げているのでしょう。大勢の前で、軽々しく「できません」なんて言わないで欲しいと言いたかったのです。その辺は誤解のないようにお願いします。</p> |
| 委員 | <p>ボランティアには当然責任が付いてきます。ただ、個人もそれぞれ状況が違います。ボランティアグループにもそれぞれの事情があるので、そういうことは加味していただきたいと思います。</p> |
| 委員 | <p>それは当然です。もちろん自治会にも、個人個人でみれば「今日はどういうことがあるからできない」という事情があります。ただ、例えば福祉委員会なら福祉委員会で責任をもって話をしてほしいのです。ですから、その団体の中で私が言ったのは、個人の問題ではないので個人で決めず、持って帰ってみんなで話をしなさいということです。つまり団体として処理をしないとダメだということです。代表として出てきているのに簡単にできないというのはおかしいと思うのです。</p> |
| 委員 | <p>委員のおっしゃりたい気持ちはよくわかりました。ボランティアというのは無償というのが日本独特でして、欧米では志願兵など有償の部分があるのです。自分の主体的な気持ちというか、そういう部分を非常に重視しております。それと今日本では、無償というのがボランティアで、代名詞のように言われていますが、有償ボランティアというのも実際出てきております。非常に矛盾した部分ではあるのですが、気持ちはボランティアの精神をもって、主体的にはやりますが、それについてのお金も少しは関係してくるとというのが今の現実であるわけです。</p> |
| 委員 | <p>助成金の在り方についてですが、現在は行政から均等にくることになっています。そこには考え方に公正ということもあります。というのも縛りが無いから「自分たちで考えて使いなさい」という意味もあるのです。将来を考えてみると、やっぱり地域分権的に考えてしまいます。やはり各地域によって特色がありますから、私達もどういふふうな地域にしたいのか今後考えていかなければいけないと思います。行政も、どうあるべきかということを考えていただかないといけません</p> |

ん。そして、地域と行政が話し合っ、それに合った助成金なり、援助をしていただく。そういうコミュニケーションをずっと計っていかなければならないのではないかと思います。それを、コミュニケーション無しでやってしまうと、一律に渡すしかなくなってしまいます。貰うほうも、一律にやらざるをえず、「こういう事をしたいのにできない」となります。「去年はしてないけど、今年はどういうふうにしたい」という相談に対して、フレキシブルに対応できる助成金の在り方を今後考えていきたいというのが、どこの地域でもあると思います。

それから、先程も言いましたように、リーダーの問題があります。地域のリーダー、組織のリーダーによって、色々行き違いもありますし、よそが発展的なのに、いつまでたっても同じようなことをしているということもあります。しかし、それも私のような地域の者からすると、そういうリーダーでも一生懸命にやってくれているので、責められない部分もあると思うのです。もしその人がやめたら、かわりに誰がやるのだということになると、誰もいないかもしれません。ひょっとしたらわざわざ引き受けていただいているかもしれません。そういった問題も組織にはありますので、一概には責められないのではないかと思います。

それから、社会福祉協議会、ボランティアセンターについてです。私、実は社会福祉協議会の一員でずっと勉強しておりました。それなのに大きな視点が今回の会議でわかりまして、言うのは恥ずかしいのですが、「ボランティアセンターの在り方」というのはずっと色々な意見を言っていたのです。なぜかボランティアの組織が少ないということや、使い勝手が悪いというか、こういうふうなボランティアが欲しいのに無償で来るとか来ないとか、色々使い勝手が悪いということです。私たち地域の立場から言うと。それでずっと話し合ってきたのですが、社会福祉協議会のボランティアセンターは、あくまでも「福祉」だとおっしゃっているのです。福祉分野に限定しているのです。一方、市民活動センターは17の種類があるといわれる。県の社会福祉協議会は、全部一緒なのです。「ボランティア」とか「福祉」とか分けてないわけです。そう考えると、市もどちらかに吸収合併してもらわないと、「こっちはこっち、そっちはそっち」というのはいかなものかなと思いました。市民活動の方が出来るときにその話は行政にしているのです、一部のところで。そのうえで、あえて社会福祉協議会の立場はやはり「福祉」だということで、あくまでも分けた経緯

があります。やはり県社会福祉協議会がこれだけじゃないということや、川西がもし東日本大震災のような災害が起こったときに、ボランティアセンターが叱咤して、振り分けもやらないといけないのに、「僕は福祉だけなのです」というような時代ではないと思います。東日本大震災の被災地にも行ってらっしゃるのですから、向こうに行つて思いませんでしたか。「僕は福祉だけです」なんて言えますか。

委員

前回の委員会でもお話させていただいたように、福祉分野のボランティア活動センターと市民活動センターというのは、今後の大きな課題なのです。他市では、既に両方のセンターが隣同士の窓口でやっている所もありますので、それは今後の課題だと思います。南三陸のボランティア活動センターに行つてまいりましたが、そこではもちろん福祉を踏まえて、全ての、援助が必要な方の援助内容をボランティアセンターがニーズを聞き、それに対応するボランティアの方がいらつしやればコーディネートするというふうになりますので、うちの福祉という部分には限つてはおりません。

委員

資料3はワークショップの内容も掲載されているのです。話を聞いて感じたのは、認識の差がかなりあるということです。特に自治会、コミュニティについてです。個人的にある程度は理解していたつもりなのですが。

この会議の中で一番気にしていたのは、担い手の問題です。担い手と言つても一つではなく、二通り意味があると思います。一つは我々がいつもやっている、自治会とかコミュニティの方です。それと、この推進会議の中で、これからの参画と協働のまちづくりの担い手は誰がやるのかと二つあると思うのです。今、直接我々が感じているのは、自治会にしろ、コミュニティにしろ、福祉もそうですが、次の担い手が継続していけるのかということです。そういう危惧があります。私も含め、今は日中に仕事をしていませんが、川西の市民は勤務されている方が多いですね。女性の方でも若い人なんかは、殆どパートに行かれたりしています。いわゆる朝から晩まで家にいる人は、昔と比べるとかなり減っているのです。我々がやっている活動の中でも、いつも頭を痛めているのは、誰がやるのか、担い手がないことです。特に団塊の世代を期待しているという言い方をされますが、実際どういうふうに取り入れるのかとなった時には、言うのは簡単ですが、現実の問題としてなかなか難しいのです。男性でも60歳で定年になつ

たらずぐに自由な身になるという人はほとんどいません。年金をもらう65歳まで仕事をされるのです。川西の場合、事業者の数は、失礼かもしれませんが、勤務者に比べるとかなり少ないですよ。そうしますと、自治会にしろ、コミュニティにしろ、我々がやっている活動に、もちろん事業者の方もおられますが、圧倒的に事業者以外の方、いわゆる、勤務している方、定年退職でリタイアして時間があってそういう意識のある方が来られているのです。ところが現実の問題として、北部地域では、コミュニティと自治会が同じだという所が三つあります。牧ノ台、北稜と明峰だったかな、記憶が定かではありませんが。それから、清和台みたいに自治会の数が少なかったり、我々みたいに南部のほうで自治会の数が21であったり22であったりというふうに千差万別なのです。でも主体的に動いているのは、定年後リタイアされて時間に余裕のある方、あるいは、ずっとその地域に住んでおられた方ですね。新しく移ってきた住民の方というのは、まず参加する機会がない所もあります。そういう方は自ら進んで、こういうふうな活動に取り組もうという人は殆どいない気がします。コミュニティにしろ、自治会にしろ、一番困るのは、やっぱり担い手ですよ。これから誰がやっていくのか。これが一番大きな問題です。これが地域分権のはしりかも知れないですが、参画と協働があって、まちづくりを誰がやっていくのかとなったときに、コミュニティがやるのか、自治会がやるのか、NPOなどの団体がやるのか、事業者がやるのかとなったときに、それは分けて考えなければいけないのではないかと思います。自治会とかコミュニティが充実していて、やっている人もしっかりしていて、色々な事をやられているという所では、担い手になれる可能性は大きいと思います。まだまだそこまでいない自治会やコミュニティもあると思います。ではNPOが単独でそういうことができるかと言えばそれは難しいですね。やっぱり連携していかなければなりません。その地域の中の事業者とかNPOとか自治会とかコミュニティが一つの地域として固まって、市全体のまちづくりをやっていかなければいけないと思うのです。なかなか一筋縄ではいかないなという気はします。ただ、先ほど清和台なんかは福祉もかなり先進的で、大和のほうは消防車の話がでましたが、自主防災会のほうで、かなりいろいろパトロールなど防犯活動もやっています。そういう所が受け皿としては、いいなと思います。

委員

担い手については、確かに大事な問題ですし、難しいと思います。

ただ、あなたほど、私は悲観していないのです。私がこの町にやってきた時は、自治会ができたばかりの時でした。誰が自治会の運営をこうしていこうとか土台作りをしたかという、みんな現役の人ばかりです。60、70歳の人はおりませんでした。みんな仕事をして、夜の7時8時に集まって、10時11時までやったのです。やろうと思ったらできるのです。今やっていた人がだんだん年寄りになって、なんとかやっているからいいのですが、難しくなっている。だから私は言ったのです。自治会を潰したらどうだと。そうすれば誰かがやるようになりますよ。さっき、よその自治会を見習いなさいといいました。例えば、グリーンハイツは1年が任期ですよ。1年で辞めると決まっていたら、次、誰かが嫌でもやらなければいけないのです。ですから、そういう所を見習いなさいと言っているのです。しかし、一旦、会長や副会長になってしまうと、2年3年とやりたくなるのです。それを許している会員もいけないと思いますが、そういう仕組み自体を変えないといけないのだと思います。そういう意味で、私は、副会長ほどには悲観していないのです。

会長 かつてはやっていたのですものね。

委員 自治会をやめても町がうまくいくなら、それでいいですよ。自治会無しでやれるなら、それに越したことはないですからね。そういうことも含めて、皆の意識の問題です。やっている人が、やりたい、やりたいと思っていなければダメなのですよ。

会長 今のお話は、基本的にその通りだと思います。地域でやりたい事をやればいいわけですね。ところが、やりたい事をやるのであれば、その分の責任は自分たちで負わなければいけないし、そこで担い手がないというのであれば、担い手を見つけてくることも、その地域でこういう場を作って確保するとかといった、そういうような知恵を、地域で出せる場所がないと、先に進んでいけないのだと思います。それをどうやって、まちづくりの場面で担保していくのかということは今後考えていかなければと思います。

 その中で、人をどうやって見つけるかということですね。私自身もあまり悲観していないのは、2012年、来年からいよいよ本格的に団塊の世代が65歳を迎えて、いよいよ年金が付いて、本格的に地域に戻ってくるわけです。この前もお話しましたが、10%か15%は何か

| | |
|----|--|
| | <p>やってみたいというお父さんがいるわけです。そのお父さんたちに期待したのですが、そのお父さんたちが、今のままいくと個別ばらばらになってしまいます。そういうときに、自治会活動をやりたいなと思ったり、NPO活動やりたいなと思ったり、ボランティア活動やりたいなと思ったり、地域公益活動団体がたくさん地域にあって、「こういうことをやってみたい」というときに、機会が提供できる場所が地域にないとまずいなと思います。それは、川西で一本でもいいのです。色々な紹介ができる場所が、ボランティアセンターであり、市民活動センターですね。そして、地域で「ちょっとやってみたいな」という時に、コミュニティ協議会の大きな役割というのものもあるのかなと思って聞いていました。それが自分の特技を生かした特産品の開発であったりすれば、本当に楽しいなと思うのですよ。川西で老後を暮らせてよかったなと思うのです。</p> |
| 委員 | <p>多分、そう思っている人はたくさんいるのですが、何処にどう言えばいいのかが分からないのです。実際に言っていくところがないのです。市民として、「こういう事が言いたいな」と思って、市役所にアタックしても、決まった文句しか返ってこないのが、がっかりして、もういいかなとなってしまうのですよね。今そういう感じではないですかね。</p> |
| 会長 | <p>それを市役所だけが受け止めるのではなくて、色々な所で受け止められる仕組みが必要なのだろうなと思います。</p> |
| 委員 | <p>コミュニティに、地域分権的にこういう事をしたいと言って、助成金だけじゃなくて、プラスαのフレキシブルなお金をもしいただけるのであれば、私の小学校区のエリアの中で何か地域性を持った何かをしたいと思う人に助成金をあげますよという方法も、今後考えていけば、もう少し人が出てくるかもしれないという気はします。</p> |
| 委員 | <p>それは、一番初めに議論した内容で、「福祉のデザインひろばづくり事業」のような、「お金をあげるから何かをやりなさい」という発想は駄目だと思います。</p> |
| 会長 | <p>そうではなくて、企画をして、地域の課題を「こんなふうに私達だったら解決します」という企画によってですよ。</p> |

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>解決までいかななくても、たとえば、イチジクをもう少し、ネーミングを上げるための活動をするとか、地域を紹介するマップを作りますとか。そういう事を提案していただいたら、ある程度、行政からというよりも、地域からお金を出すということで、責任をもって人を増やすということもできるのかなと思いますね。福祉デザインひろばづくり事業は、毎年、放っておいてもくれますよね。</p> |
| 委員 | <p>だから、そういうのはダメですよ。</p> |
| 会長 | <p>そうそう。放っておいてもくれるのはダメですね。</p> |
| 委員 | <p>期間限定でやってみて、良い活動であれば、継続的にやることもありだと思えますが。県みたいに3年か5年で打ち切るという形で割り切ったらある程度できると思えます。</p> |
| 会長 | <p>そういうやり方もありますよね。</p> |
| 委員 | <p>イチジクの話はJAが主導権を取っていますね。そこに商工会も行って話をすればいいと思います。</p> <p>福祉の拠点の話もされてきましたよね。加茂のように全部市が出しているというのは少ないのです。私のところはないのです。福祉のところもないのです。福祉の方はさかんに欲しいと言っています。しかし、100%行政の方から、拠点を建ててもらって、維持管理も全部やってもらうというなら話は別ですが、それを地域の中でも負担してください、維持管理をしてください、となると、それはできません。北部のコミュニティなら、当番制などで、常駐する人も確保できると思えます。そういう所は公民館もあるし、自治会館も充実されていますから、かなり活発にやっていると思えます。</p> |
| 委員 | <p>航空対策の施設はないのですか。</p> |
| 委員 | <p>ありません。そういうことで地域性もあるのでいろいろ問題もあるのです。</p> <p>話は戻りますが、現実の問題として、今は担い手の問題なのです。あまり悲観していないという意見もありましたが、私はいつも心配し</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>ているのです。</p> |
| 委員 | <p>「なりたい」というだけでなる、というのいかなものかと思うのです。なりたい人で全部賄うのではなくて、リーダーとして資質があって、皆がこの人でよかったと思う人を育てたいというのがあります。</p> |
| 会長 | <p>育てるためには発見しないといけませんね。</p> |
| 委員 | <p>なりたい人を探すのではなくて。</p> |
| 委員 | <p>この会議と若干離れるかもしれませんが、民生委員の選任の件でも、だんだん難しくなってきました。自然に高齢化してきました。今は、年齢の上限を上げて対応していますが。皆さんは団塊の世代を期待しているかもしれませんが、どちらかというと、こういう公の活躍ではなくて、自分の趣味にはしる人が結構いるのです。写真やゴルフ等の趣味に人生を賭けている人もかなりいるので、それを考えたら、危機感を抱いているのです。そこに有償と無償の大きな差があって、有償ですから来るかと言えば、そうではないのです。やっぱり人の為になんかをやりたいという人しか、コミュニティ活動には来ないのです。そこが難しいと思います。</p> <p>コミュニティの中でも プール開放事業が市の事業の委託なので。我々基本的には、コミュニティ活動というのは、ボランティアでやっているのです。その中で、委託事業という形で、かつての体育振興会の流れで、お金が流れてきているから日当を出しているわけですよ。我々コミュニティの中で有償の部分と無償の部分があるから本来のコミュニティの活動をするものがおかしくなるのではないかと思うのです。先ほどの子ども教室の話も同じことなのです。子ども教室の中でも、すべてお金が出るのです。13のコミュニティがありますが、連合会の中でも、そういう考え方に賛成する所もあるかもしれないし、反対する所もあるだろうし、それは難しい問題だと思います。まちづくりはお金が絡んでくる問題です。だから余程考える必要があるのかと思うのです。</p> |
| 会長 | <p>お金の話というのは、いずれかなり詰めた議論をしなければいけないのかなと思っています。どうやら全体像から言うと、こういう場を</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>作って、人と人をつなげていく、まずは情報をちゃんと回すという仕組みをこれから作っていかないといけない話かと思います。</p> <p>まちづくりの主体別にみた現状・課題の整理ということで、具体的に見えてきた現状というのは、市民の高齢化であり、地域団体、ボランティア、NPO、事業者や行政も、川西市を良くしたいという目的で動いているというのは、皆さんの意見を伺って、強く感じたところです。まちづくりを主体別に見たときに、市民として見えてこなかった現状・課題を3点申し上げます。</p> <p>まず1点目は、やはり地域公益団体、事業者、行政それぞれの仕組みや肩書き、連携や協力、お金の流れであるとかいうものを一般市民が見たとき、難解だということです。殆ど分かりません。ただ、皆さんがすごくそれぞれに頑張っていらっしゃるというのは分かったのですが、お話を聞いていて、今日たまたまなのですが、「イチジク」がテーマに出たときに、それぞれの立場の方が横断的な情報交換をしたことによって、色々良いアイデアが出ましたよね。私も「このイチジク、どうにかならないかな」と思っていた一人なのです。こういうふうの一つの目的があって、どうにかして川西市のイチジクの品質をPRしてブランド化できないかという目的を持つと、色々な立場の人が色々な意見を言って、とても良い話し合いの場ができたわけですよ。次にまちづくりを考えると、このように一つの目的に向かって、それぞれの今までの古い慣習であるとか、人の使い方であるとかお金の動き方というのは、一緒にすることはできません。しかし、ノウハウとか知恵とかNPOが持っているもの、自治会が持っているもの、コミュニティが持っているもの、そしてサポートして下さっている団体や行政が持っているもの、そのノウハウを集めて同じ目的に向かえるような仕組みが欲しいと思います。</p> <p>2点目は、川西の総合計画が第4期の後半に入っているわけですが、この10年間で何に向かって進んでいくのかが、少し見えませんでした。参画と協働をベースに人と人が繋がるという図になっていたのですが、もっと分かりやすいような表現で見せるということも必要で、次の第5次総合計画を考えるときには、そういう視点が必要なのかなと思います。</p> <p>3点目は、川西市というのは特別何か特徴があるものではないというのは皆さんの共通の認識ですね。ただ、それぞれの地域ですごく良いものを持っているということを実感しているのです。ですから、是</p> |
|----|---|

非次の基本計画策定に向けた視点で考えれば、一つ川西市として大きな目標を掲げて、市民が向かうというのも一つですし、各地域の地の利や特徴を活かした目標を、各コミュニティというくくりになるのかは分かりませんが、目標を掲げて、そこに住む人達が次の目標に向かって動いていくような、その町の魅力を作っていくということですね。それを自治会とコミュニティの皆さんと、NPOとかボランティア、事業主の方のアイデア、行政の方の協力でやっていければと思います。要するに地域分権ですよ。例えば、突拍子も無い意見なのですが、清和台のコミュニティの中では、この5年10年の計画において、こういう所をターゲットに、福祉を重点的にやっていくとして、福祉で魅力ある地域づくりというものをテーマに掲げて、自治会の方、行政の方、それぞれのノウハウを持った方が集まって、「こういう計画を5年10年で立てましたので、今年度の1億3千万のうちのいくらかください」みたいな、割り当てられたものを使うのではなく、こちらから「それだけ下さい」ということを各コミュニティで、計画をつくってやっていくというふうにすると、コミュニティが動いていないところは貰いにいけないわけです。自分のまちづくりができないわけです。自分が住んでいる家がある所は良くしたいですね。けやき坂で言ったら、もう少し買い物をする所が欲しいし、足の便ももう少しよくしたいということがありますね。そういう事に一生懸命になる担い手も育ってくるのではないかと思います。貰ってやっているのではなく、自分たちが目標を持って、魅力ある地域づくり、5年10年でこうしたいと目標を持って、お金のことも考えていければと思います。

会長

今後の方向性を示していただいたような感じですね。たぶんそういう方向性が重要なのだらうと思います。川西がというわけではなく、どこの地域もそうなのですが、「金があるから何かをする」というのではだめですね。何かするというのは、「急速に高齢化するこの地域のこういう課題を解決するために、私たちはこういう事をやります。だから金をくれ」という話に変えていかなければいけないと思います。先々週、三重県のリアス式海岸の一つの集落に行ったのです。そこで、フラット会議みたいなものを、「誰が来てもいいから地域の課題を語りましょう」という会議をやっている様子で、そこで区長さんが、「こういう事があったのです。」と語っていました。1,600人の集落なのに、あの地震があつて、小学校では標高が足りないということで、裏の山まで逃げる道を作らなければいけないと言って、声を掛けたら

、4月28日に200人の人が、鎌とか色々な物を持って集まって、あっという間に避難路ができたということです。そして、それを見ていた役場が「さすがにまずいな」ということで、土木の重機をいれて、その後を整備してくれたということです。今、その区長さんが考えていることが何かというと、住民はお年寄りばかりですから、お年寄りを山まで避難させるのは人力では無理なので、いざというときに、お年寄りを乗せた車は、林道を走れるように、そしてお年寄りを乗せない車は、車を放って徒歩で避難所に上がるようにというようなことを地域に申し合わせしたいということです。要するに、皆で逃げないといけないのですが、車で逃げて渋滞するのが一番辛い話だから、お年寄りを乗せた車だけが登れるような道の通行許可証みたいなものを発行できないかどうか、ということ課題提出されてきました。この1,600人の地域で「うちはこういうふうにするのだ」といえば、それはそれでいいのではないかと思います、それでみんなが助かるのであれば。そういうローカルルールを作ることをこの地域では始めたのです。おそらくそういうことが、色々なところで出てくるのではないかと思います。その中には、「1年交代の自治会長でいいのか」あるいは、「1年だから頑張る」話なのか。それとも「数年はやってください」という話になるのか。ローカルルールは皆に知られていくことが前提ですから、そのための組織体制というのは、コミュニティの体制でいいのかということも検討しないといけないでしょうね。また、地域課題解決の共通の目標を持つということが今後の一番大きなことかもしれませんね。

よろしければ、課題出しというのは今回で終了させていただいて、いよいよ今後は、この参画と協働のまちづくりの基本計画というものを具体的に、今までの議論を踏まえて作っていきたいと思います。今後の議論の中にも、市民活動センターの役割というのは、議論もあると思います。適宜継続的にご参加をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(日程調整 次回7月8日午後6時からに決定)

(7月3日キックオフフォーラムについて案内)